

126 ヒノキ間伐展示林（小川長洞1114ほ）

試験期間 H12～

最終調査年度

2021年

1 設定の目的

平成12年 間伐の効果を把握するため、間伐率の異なるプロットを並列させ、下層植生の推移、植栽木の生育状況、気象害の影響などを観察することを目的に設定した。

平成20年には列状間伐区を新たに設定した。

2 場所等

下呂市大字小川 小川長洞国有林1114ほ林小班

機能類型等：水源かん養タイプ

3 面積

2.00ha（定性間伐 プロット4箇所：20%・30%・40%・対照区）

0.90ha（列状間伐 1伐2残×3列 1伐3残×3列 2伐4残×4列）

4 施業等の概要

【3,000本/ha, 5,000本/ha区】

時期	林齢	作業種	内容
昭和41年3月	1	植栽	5,200本/ha植栽
昭和41～46年	1～6	下刈	6回下刈実施
昭和46年	6	つる切	つる切実施
昭和49, 56年	9, 16	除伐	除伐実施
昭和52～60年	12～20	枝打	昭和52、55、59、60年枝打実施
昭和62年	22	除伐2類	除伐2類実施
平成12年	35	間伐	間伐率：20%・30%・40%のプロットを設置 間伐前2,400本/ha
平成20年3月	43	間伐	列状間伐区：1伐2残、1伐3残、2伐4残 定性間伐区：全て25%前後で間伐を実施
平成23年	46	つる切	つる切実施

5 調査計画等

定性間伐区(5年ごと)：胸高直径、樹高、枝下高、相対照度、侵入した主な下層植生の種類(目視)、定点写真撮影

列状間伐区(5年ごと)：胸高直径、樹高、枝下高、樹冠定点写真撮影

6 地況

標高	640m～680m
平均林地傾斜	25度
方位	南西
土壌型	Bb（乾性性褐色森林土）

7 プロット現況

林齢： 57年生（令和3年度現在）

下層植生： アセビ、シキミ、ソヨゴ、シロモジ、ヤブコウジ等が部分的に生育しているほか、ミヤコザサ、モミ、コウヤマキ、コシアブラが希に見られる。

【定性間伐区】

平成29年調査

試験区	面積(ha)	本数/ha	平均胸高直径 (cm)	平均樹高(m)	材積(m ³ /ha)	単木材積 (m ³ /本)
20%区	0.0498	1,807	22.7	18.4	711.9	0.39
30%区	0.1021	1,587	22.4	18.0	590.9	0.37
40%区	0.0532	1,372	23.0	17.2	511.7	0.37

【列状間伐区】

平成29年調査

試験区	面積(ha)	本数/ha	平均胸高直径 (cm)	平均樹高(m)	材積(m ³ /ha)	単木材積 (m ³ /本)
20%区	-	2,000	21.9	17.3	684.8	0.34
30%区	-	2,000	23.0	17.3	754.3	0.38
40%区	-	2,000	18.7	15.2	467.3	0.23



